



2



3



4

1くす玉が割られ、大きな拍手が送られた 2認定証が手渡され「ありがとう」と元気よく言う友太郎くん 3役場前に懸垂幕を設置 4町特産のにんじんや野菜、にんじん焼酎「酔紅」、にんじんドレッシングなどの記念品を贈呈



1

集 菊陽町の人口が4万人を突破 特 さらなる飛躍へー

4月6日、菊陽町の人口が4万人を超えました。本町は平成22年の国勢調査で人口伸び率が全国第4位、県内では第1位でした。今回、4万人突破を祝い、役場1階ロビーで行われたセレモニーの様子や町の主な施策などから、その要因に迫ります。

記 念すべき4万人目となったのは、札幌市から光の森地区に転入してきた鈴木達郎さんご家族の長男・友太郎くん。セレモニーでは、鈴木さんご家族、後藤三雄町長、井手義隆副町長、赤峰洋次教育長が4万人突破を祝って、くす玉割りを行い、会場は大きな拍手に包まれました。友太郎くんには4万人目を証明する認定証やにんじんなどの野菜詰め合わせ、町マスコットキャラクター「キヤロッピー」のピンバッジなどの記念品が贈られました。

「4万人目と聞いて、まさかと驚きました。職場は菊陽町ではなく近隣ですが、子育てしやすく、住みやすい町と聞いたので菊陽町を選びました。とても楽しみです。家族も早く慣れてくれるといいですね」と話す達郎さん。妻のひとみさんは「子ども医療費の助成が中学3年生までというのに驚きました。光の森は日常の買い物もやすく、便利で良いですね。ただ、私は熊本に住むのは初めてなので、湿度と夏の暑さが心配です」と笑顔で話します。ことし新1年生になった友太郎くんは、熊本での生活に「楽しみます」と元気よく答えていました。

鍵はインフラ整備

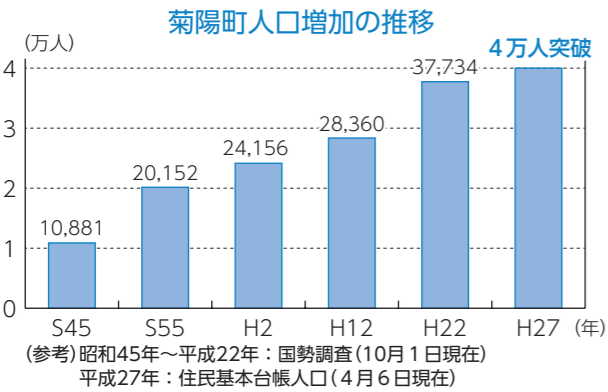
菊陽町は昭和30年4月1日に菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村の3カ村が合併し「菊陽村」として誕生。その後、昭和44年1月1日に「菊陽町」となり、現在に至っています。

昭和30年、合併当初の人口は1万2,115人でした。昭和40年代から都市化が進み、昭和55年の国勢調査では2万人を、平成16年4月1日には3万人を超え、平成27年4月6日に4万人を突破しました。

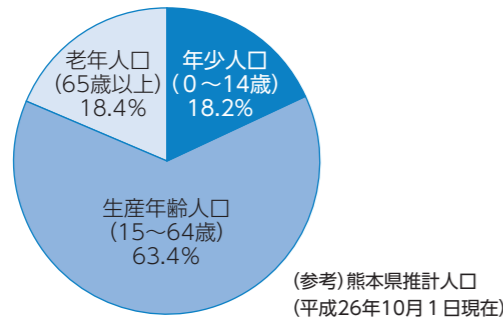
人口増加の要因は町の取り組みとして主に3つ挙げられます。1つ目は道路や土地区画整理、下水道などの生活インフラの整備です。これにより多くの住宅団地や公園が整備され、住みよい環境となりました。

2つ目はソーセミコンダクタ(株)や富士フィルム九州(株)など、日本が世界に誇る企業の立地や大型商業施設の進出です。交通の便や豊かな地下水、地理的条件を軸に誘致が進みました。

3つ目は子育て支援です。中学3年生までの医療費の助成や保育園の誘致、地域子育て支援センターの開設、学校教育施設の整備など、充実した子育て支援が挙げられます。これからも菊陽町に「住んで良かった」「住み続けたい」と思える魅力あるまちづくりに取り組んでいきます。



菊陽町総人口に対する割合(%)





人・緑 未来輝く 生活都市 きくよう

わが住む町へ

菊陽町の総合計画では、平成32年度に人口4万3千人を目指しています。後藤町長は式典で「町の将来像である『人・緑 未来輝く生活都市 きくよう』の実現に向け、町民の皆さんとの協働で、さらに住みよい町になるよう努めていきます」と話しました。また、鈴木さんご家族に対し、「菊陽町は子育て支援も充実しています。3月の終わりには、光の森町民センター『キャロピア』もオープンしました。ぜひ活用してください。菊陽町での生活に早く慣れて安心して住んでもらいたいですね」とメッセージを贈りました。

町は、生活する場と働く場が共存する「生活都市」を将来像に掲げています。現在、町には若い世代が多く、出生率も高くなっています。人口4万人を突破し、ことし合併60周年を迎える中、さらに住みよい町を目指す菊陽町の今年度の主な事業を紹介します。

子育てしやすい町へ

子ども医療費助成(中3まで)など

予算額 3億258万円

子どもの健全な育成や子育て支援を図るため、中学3年生までの医療費を助成しています。その他、フッ化物洗口やさまざまな電話相談、赤ちゃんの全戸訪問を行っています。インフルエンザの予防接種も1歳～65歳未満は1,500円で受けられます。



◀ プクプクがいをする児童

☎ 健康・保険課 ☎ (232) 4912

混ぜればごみ、分ければ資源

リサイクル事業の推進

予算額 835万円

暮らしの中で必ず出るごみ。ごみは菊陽町、菊池市(旧泗水町)、合志市、大津町で構成する菊池環境保全組合の工場処理しています。処理には多くのお金がかかるため子ども会や自治会でのリサイクル活動に奨励金を交付しています。家庭からのごみを減らし、処理にかかる費用を減らしましょう。



◀ 廃品回収をする馬場地区の住民の皆さん

☎ 環境生活課 ごみ減量推進係 ☎ (232) 2114

伸び伸びと学べる環境を整備

武蔵ヶ丘中学校を整備

予算額 9億3,487万円

近年、武蔵ヶ丘中学校の生徒数が増加し、教室が不足しています。そのため、校舎増築と既存校舎改修など施設の整備を行います。増築棟の概要は、鉄骨造(耐火)3階建て、延べ床面積約1,754平方メートルで計画し、平成28年3月に完成予定です。



◀ 武蔵ヶ丘中学校完成イメージ

☎ 学務課 施設係 ☎ (232) 4918

歴史と文化を継承する

鼻ぐり井手公園を拡張

予算額 9,313万円

現代に生き続ける歴史的農業土木施設・鼻ぐり井手。今秋の公園完成を目指し、整備を進めています。多世代が交流しながら、町の歴史と文化を継承していきます。町民の皆さんが憩うことで、新しいにぎわいが生まれ、地域の活性化につなげていきます。



◀ 整備が進む鼻ぐり井手公園

☎ 都市計画課 都市計画係 ☎ (232) 4927

待機児童の解消を目指して

町立・私立保育園の運営

予算額 13億7,876万円

4月に津久礼ヶ丘保育園(定員120人)とげんき保育園(定員90人)が開園し、私立保育園は全部で7園になりました。公立保育園は8園で、合わせると15園になります。各保育園はそれぞれの特長を生かした運営をしていきます。



◀ ひかりのもり公園の大型複合遊具で遊ぶ園児

☎ 子育て支援課 保育所係 ☎ (232) 2202

安心して子どもを育てるために

学童クラブきくようの運営

予算額 5,712万円

ことし4月から町内9カ所の学童クラブの運営が保護者会から「学童クラブきくよう」に移行しました。学童クラブは保護者が就労などで昼間家庭にいない児童を放課後に預かるものです。

児童はいろんな学年と同じ時間を過ごし、一緒に宿題をしたり遊んだりと健やかに育っています。



◀ 学童クラブで宿題をする児童

☎ 子育て支援課 子育て支援係 ☎ (232) 2202

60年の歴史を振り返る

合併60周年記念事業

予算額 333万円

昭和30年4月1日に菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村の3カ村が合併して誕生した菊陽町。先人が築いた文化や歴史、豊かな自然を受け継ぎ、恵まれた環境と地理的条件を生かしたまちづくりを進めてきました。

合併60周年にあたる今年度は町の歩みを振り返り、10月に記念行事を行い、節目を祝う予定です。



◀ キャロッピー

☎ 総務課 総務法制係 ☎ (232) 2111

さまざまな交流と活動の場へ

光の森町民センター「キャロピア」の運営

予算額 3,539万円

各種証明書発行や戸籍の届け出、住所異動の届け出などを受け付ける西部支所があります。会議室や多目的室、体育館、地域子育て支援センターもあり、町民の皆さんがつどい、新たな交流と活動の場となるよう運営していきます。



◀ 子育て支援センター

利用者の声

とてもいい施設ですね。支援センター内に5月からおもちゃがたくさん入ると聞きました。とても楽しみです。

☎ 西部支所 ☎ (237) 6555
 子育て支援センター ☎ (237) 6575
 センター管理室 ☎ (237) 6577